

きずなが豊かな地域は、高齢者の歯にも優しい

<研究方法>

愛知県の25市町村で2003年に、健康な65歳以上の高齢者を対象に、アンケート調査を行った。居住地域の情報があり、回答の得られた5560名のデータについて、①社会参加と歯の本数についての解析および、②社会参加が多い地域に居住しているかどうかと歯の本数についての解析を行った。

社会参加は、グループ活動への参加を選択肢で質問し、分析の際に①平等的な組織（趣味やスポーツ、ボランティアなど）と、②上下関係のある組織（政治団体、業界団体など）の2種類に分けた。歯の本数もアンケートで質問し、①20本以上保有と②19本以下保有の2段階に分けて分析をした。

<研究結果>

その結果、平等的な組織に多く参加する者は20本以上歯を保有する者が41.8%であったが、参加しない者では24.6%にとどまった。上下関係のある組織に多く参加する者では20本以上歯を保有する者が30.3%で、参加しない者では27.5%で大差は無かった。

性別や年齢、その他の要因の影響を取り除いた解析の結果、平等的な組織に参加する者に比べて、参加しない者は歯の本数が19本以下のリスクが1.45倍高かった。一方、上下関係のある組織については、参加者と非参加者で統計学的な差が無かった。さらに、統計的に個人の組織参加が同じ状況だとした場合でも、平等的な組織が多い地域に居住する者に比べて、少ない地域に居住する者では歯の本数が19本以下のリスクが1.25倍高かった。一方、上下関係のある組織の多い地域、少ない地域の居住での違いは、統計学的な差が無かった。

<研究の意義>

本研究は、世界的に研究が行われつつある個人と地域規模の両方の人々のきずな（ソーシャルキャピタル）と健康の関係を、高齢者の歯の健康で確認した世界で初めての研究でもある。社会参加という形で、人々とのきずなを多く持つ人の方が、歯を健康に保っていた。しかし、これは参加する組織の種類により異なり、平等的組織でのみその効果が見られた。さらに、個人の社会参加に関わらず、平等的な組織が多い地域では、歯の健康が良かった。これは、きずなが豊富なことで良い健康情報の普及がすすんだり、人々の助け合いが多いことで健康的な生活を送りやすくなることがあるのだろう。所得格差による健康格差が指摘されているが、きずなが豊かな地域ではこの格差が減らせる可能性がある。高齢者の歯の健康を守るには、きずな豊かな地域づくりも大切で、そのためには退職後の高齢者が社会参加しやすくなる仕組みづくりが求められよう。

論文：Aida J, Hanibuchi T, Nakade M, Hirai H, Osaka K, Kondo K. The different effects of vertical social capital and horizontal social capital on dental status: a multilevel analysis. Soc Sci Med 69(4):512-8.2009

学会発表：J. AIDA, T. HANIBUCHI, M. NAKADE, H. HIRAI, K. KONDO: Effects of vertical and horizontal social capital on oral health, 86th General Session and Exhibition of the International, American, and Canadian Associations for Dental Research. Tronto. July 1-July 5, 2008

連絡先：相田潤（東北大学大学院 歯学研究科 国際歯科保健学分野）

〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町4番1号 Phone: 022-717-7639 Fax: 022-717-7644

e-mail: aidajun@mail.tains.tohoku.ac.jp